

学校教育目標	自分に自信をもち、人と学びあい、主体的に生きる「しきどっ子」の育成
育成を目指す資質・能力	心豊かな子 かしこい子 たくましい子

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○単元末テストの結果から ・基礎・基本が十分でない児童がおり、個人差がある。 (単元末テスト達成率40%以下の児童の割合…国語1.3%算数1.6%) ・単元末テスト達成率80%以上の児童の割合が90%に満たないクラスがほとんどである。基礎・基本ができていても、問題文を正確に読み取れていなかったり、応用的なものが苦手であったりする。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○児童アンケートから ・「授業の最初と最後のあいさつはきちんとできている」と回答した児童の割合は94%で、授業に向かう姿勢は整いつつある。 ・「授業中に自分の考えや意見を進んで発表できる」と回答した児童の割合は83%で、少数であるが自分の考えを表現できていない子がいる。発表だけでなく、「書くこと」の表現力も必要。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ○個人差が大きく、自分の考えをもちたり、友だちの考えと比べたりすることが苦手である。 ○語彙力が少なく、文章を読んでその場面をイメージする力が付いていない。 ○何を問われているのか正しくつかめていない。 ○自分の言葉で説明したり、書いたりすることに苦手意識がある。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・「めあて・振り返り」「課題・まとめ」のある授業に取り組むことで、学年に応じた型ができつつある。 ・ペア活動が定着しており、自分の考えをもち、それを表現できる場が広がった。 ・発達の段階に合った「話し方・聞き方1・2・3」の指導を徹底することで話し方や聞き方がよくなった。 ・思考の流れが分かる整理された板書や考えの比較、変容が分かるノート指導の工夫によりノートの取り方が上達している。	
	2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・読書量の目標は達成できたが、発達の段階に応じた本や物語を読まない子がいたので、いろいろな分類の本を読む機会を作ることが大切である。 ・「努力を要する状況」の児童に対する、「敷戸タイム」を中心とした個別指導の工夫により、基礎的、基本的な学習の定着ができてきた。	

学力に関する達成指標

確かな学力(基礎・基本、活用能力)の定着・向上
 ①単元末テストにおいて、平均が80点以上の児童の割合が90%以上
 ②「家庭での勉強時間」を守れた児童の割合が90%以上

今後の具体的な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	〈授業改善のテーマ・重点〉 「わかる喜び」「できる喜び」を感じることができる「楽しい授業」の工夫・実践 ・「めあて・振り返り」「課題・まとめ」のある問題解決的な授業の実践 ・「考える力」をつける授業の工夫(ICT端末の効果的活用) ・「学習規律」の徹底	
	〈取組内容〉 ・新大分スタンダードの充実(個に応じた取組) ・学習指導の充実(定着を目指した取り組み)	〈家庭・地域の取組内容〉 ・家庭学習の充実と家庭との連携(習慣化を目指した取り組み)
	〈取組指標〉 「めあて・振り返り」「課題・まとめ」のある1時間完結型の授業の実施率が90%以上	〈家庭・地域の取組指標〉 ・家庭学習習慣(学年×10分+20分)の実施率を90%以上にする。
	〈検証指標〉 ・「めあて(見通し)・振り返り」「課題・まとめ」のある授業の取組が90%以上 ・習熟の程度に応じたきめ細かい指導の充実(子どもの実態把握、教材・教具の工夫)が80%以上 ・振り返り問題を活用した授業の徹底が70%以上 ・発達の段階に合った話し方・聞き方の指導の徹底が90%以上	〈家庭・地域の検証指標〉 ・家庭学習の協力のお願いや、家庭との連携を図る。(学習の鉄人、しきどっ子ぐんぐん)
【授業改善以外の学力向上の取組】 ・読書活動を通して、豊かな心の育成と読解力の向上を図る。 ・低学力層の児童に対し、「敷戸タイム」(朝の活動)を中心に個別指導の工夫を行う。		